

評価結果公表票

作成日 平成22年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0272100819
法人名	医療法人 敬生会
事業所名	グループホームしらかみのさと
所在地	西津軽郡深浦町大字関字小島崎58-3 (電話) 0173-84-3535
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年10月6日

【情報提供票より】(平成21年9月4日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	11 人	常勤	11人, 非常勤 0人, 常勤換算 3.2人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4)利用者の概要(9月4日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	11 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	越前胃腸科外科医院、湊谷歯科診療所
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人の老健施設と合同で、身体拘束廃止委員会やリスク委員会、研修委員会、感染症予防対策委員会等を設置しており、マニュアルの整備や制度等の職員への周知などに努め、ケアサービスの質の向上と職員の資質向上に努めている。また、運営者及び管理者は、内・外部研修に職員が参加できるよう支援したり、職員の資格取得も支援している。  
「家庭的で笑顔があふれ 地域との交流があり 楽しく安らぎのある生活」というホーム独自の理念の他に、「たゆみない現状改革が進歩を実現する」と言う年間目標を掲げ、管理者が職員のスーパーバイザーとして業務などに関する助言をしながら、全職員が理念と目標の実現に向けて取り組んでいる。  
かかりつけ医への受診や買い物などは慣れ親しんだ地域で行われているほか、近くの保育園や老人クラブとの交流を図るなど、地域との良好な関係が築かれている。  
重度化や終末期のケアについて、法人内に「看取り委員会」を設置し、老人保健施設における看取りに関する方針を活用しながら、医療機関及び家族と連携を図り、利用者が安心して過ごせるよう支援している。

【特に改善が求められる点】

災害時に備えて備蓄品を用意しているが、併設施設で一括して保管しているので、発生時にすぐに使えるようホーム内に保管することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果をミーティング時に報告して全職員に周知し、改善に向けて話し合うなど、評価を通じて日々の業務を振り返り、サービスの向上につなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を理解しており、全職員が作成した自己評価を管理者が取りまとめ、完成させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は年3回実施しており、評価の結果報告やホームの現状と課題、利用者の状況や苦情等について意見交換を行っている。また、会議で出された意見は職員に周知し、今後のサービス提供に反映させるよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者の状態や受診状況を手紙に書いたり、広報誌を定期的に配布するなど、家族に情報提供を行っている。また、家族が来所した際には声がけし、何気ない会話の中から意見等の聞き取りを行っている。また、玄関にはホーム内外の苦情受付窓口を明示している。苦情等が出された時はリスク委員会で検討し、家族へ返答する体制を整えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所に来た人に休憩などで立ち寄ってもらえるように声がけするほか、地元の老人クラブや保育園との交流を定期的に行ったり、お互いの行事に参加するなど、地域に密着した活動を行っている。また、職員はキャラバンメイトとして地域の認知症普及活動に参加している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>「家庭的で笑顔があふれ 地域との交流があり 楽しく安らぎのある生活」という地域密着型サービスの役割を反映させた理念を掲げるほか、「たゆみない現状改革が進歩を実現する」という年間目標を立て、朝礼や終礼、ミーティングを通じて全職員への理解を図り、日々のケアに取り組んでいる。</p> <p>内部研修等を通して、全職員が成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する理解を深めている。また、利用者や家族がいつでも閲覧できるように玄関にパンフレットを置いたり、必要に応じて家族等に説明している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>入居前にホームの見学を促すなど、利用者及び家族が不安にならないよう、常に利用者の立場に立って本人や家族と十分な話し合いを行っている。</p> <p>表情や会話、行動を観察し、一人ひとりの思いを共感するよう努めている。また、農作業や似顔絵、裁縫など、日常生活の中で、利用者が個々の得意分野を発揮できるよう支援している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画を作成するにあたり、日々の関わりやアセスメントから得られた利用者の意見・要望、家族・関係者・全職員の意見を取り入れている。</p> <p>介護計画の見直しは、3ヶ月・12ヶ月毎に行うほか、利用者の身体状況の変化や家族の希望の変化があれば、随時の見直しを行っている。</p> <p>通院や週1回の買い物に出かけたり、家族からの宿泊希望に応じるなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の生活歴や家族からの情報から、一人ひとりの趣味などを把握しており、農作業や似顔絵、裁縫、掃除など、個々に合った役割や楽しみごとを促している。</p> <p>利用者の言動を拒否することなく、一人ひとりのプライバシーを守るとともに、個々のペースや状態に合わせた支援を行っている。</p> <p>法人内の主治医や管理栄養士と相談しながら献立を作成しており、摂取カロリー等に配慮された食事となっている。また、水分及び食事の摂取量は個別に記録し、健康管理に努めている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で意見を出し合い、「家庭的で笑顔があふれ 地域との交流があり 楽しく安らぎのある生活」という地域密着型サービスの役割を反映させた理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホールなどの常に目の届く所に掲示しており、理念を念頭に置きながら、日々のケアを提供している。また、終礼時には、理念に基づいた気づきを話し合い、今後のケアに反映させている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	利用者や職員に地元の方が居ることもあり、近所で農業をしている方に、休憩などで立ち寄ってもらうように声がけするほか、年間行事である夏祭りや忘年会への参加を呼びかけている。また、地域の老人クラブや保育所が訪問したり、保育園の運動会に招待されるなど、お互いに行き来し、交流を深めている。認知症実践者研修の受け入れを行っており、外部からの受け入れに際しては、利用者のプライバシー等に関する誓約書を交わしている。また、職員はキャラバンメイトとして、地域の認知症普及活動に参加している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解している。全職員が作成した自己評価を管理者が取りまとめ、完成させている。また、定期的なミーティング時に外部評価の結果を報告し、改善策を検討するなど、評価を通じて日々の業務を振り返り、サービスの質の向上につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3回実施している。会議では、自己評価及び外部評価の結果報告やホームの現状と課題、利用者の状況や苦情等について意見交換を行っている。また、出された意見を基に、今後のサービスの質の向上に努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス担当者会議や運営推進会議の際に、自己評価・外部評価結果を報告し、意見交換を行っている。また、必要に応じて随時連絡を取り合うなど、会議以外でも連携を図っている。毎月発行している広報誌を役場に配布するなど、定期的な情報提供も行っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修後の報告書の回覧により、全職員への情報提供と周知を図っている。また、利用者や家族がいつでも閲覧できるよう玄関にパンフレットを置いたり、必要と思われるケースには、利用者及び家族に説明を行うほか、関係機関との連携体制も整えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に「身体拘束廃止委員会」を設けており、内部研修を行うと共に、管理者が日頃の業務を通じて指導を行うなど、全職員が理解を深めるための取り組みを行っている。管理者は職員の対応を観察し、虐待につながる行為があった場合はその都度指導するなど、未然に防ぐ取り組みも行っている。また、虐待を発見した場合の通報ツールを作成し、マニュアルに記載しており、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学してもらったり、方針等を説明している。説明の際には利用者や家族が話しやすい雰囲気を作り、その場で話せなかったことは電話での確認を行うなど、できるだけ利用者等の意見を収集するよう努めている。契約改訂時には、面会時に説明したり、遠方の方には書類を郵送して電話での説明を行っている。また、退居時にも説明し、関係機関との連携を図るなど、利用者や家族に不安を与えないよう支援している。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理状況は出納帳簿に記録しており、帳簿のコピーと領収書原本を添えて、毎月家族に報告している。また、利用者の状態や受診状況は手紙に書いて報告するほか、ホーム内の情報等は広報誌で報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時は、何気ない会話の中で要望等を聞きとるよう努めている。また、玄関にはホーム内外の苦情受付窓口を明示している。法人内に「リスク委員会」を設置しており、苦情等が出された場合は委員会で検討し、家族へ返答する仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考慮し、異動は行わない方針となっており、これまで職員の異動はしていない。また、2つのユニットを同じ職員で対応するなど、馴染みの関係を維持できるよう取り組んでいる。新人職員が配置された際には、利用者及び家族に説明することとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修委員会を設置しており、年間の研修計画を作成し、管理者が個人の能力に合わせた外部研修に職員を派遣している。ホーム内で勉強会を行うほか、法人内の他施設職員が参加した外部研修に関する報告会には、ホーム職員も参加している。外部研修後は報告書を作成し、内部研修等を通じて全職員に周知している。また、業務に関する助言は管理者が行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス担当者会議や他のグループホーム職員との交流時に意見交換を行うなど、連携を図っている。また、グループホーム協会の研修には専任理事が出席しており、その後は資料を基に全職員に報告するなど、サービスの向上と職員育成につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に自宅を訪問したり、ホームを見学してもらうなど、利用者や家族の意見を聞く機会を設けると共に、利用者の生活状況を把握するよう努めている。また、得られた情報を基に十分に話し合いを行い、納得した上で入居してもらうよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	表情や会話、行動を観察し、一人ひとりの思いを共感するよう努めている。また、農作業や似顔絵、裁縫など、日常生活の中で、利用者が個々の得意分野を発揮できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情から利用者の希望を把握するよう努めるほか、管理者が中心となり、全職員で利用者の意向等を検討している。また、必要に応じて、家族及び関係者からも情報の収集を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者の意見や希望を聞くよう努めるほか、普段の会話の内容を経過記録に残しているため、それを基に全職員で話し合いを行っている。また、家族や関係者からも意向を聞いており、個別具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月、12ヶ月毎に期間が設定されている。実施期間終了後は見直しを行っている。また、日々の観察を行い、利用者の身体状況や家族の希望等に変更がないか確認しており、変化がある場合には随時見直しを行っている。見直し時には再アセスメントを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えている。また、受診や定期的な買い物、地域散策等の送迎や付き添いの支援を行ったり、家族のホーム宿泊の希望にも対応するなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、入居前からの医療機関を受診できるよう支援している。また、法人内の医療機関でも受診可能であり、体調変化等にいつでも対応できる体制となっている。受診状況をケース記録に記載し、電話や手紙で毎月報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内に「看取り委員会」を設置しており、看取りに関する方針を明確にしている。契約時に利用者及び家族に説明するとともに、全職員が方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のペースに合わせて支援するほか、排泄誘導時は耳元で声がけするなどの配慮を行っている。法人内で個人情報の取り扱いについて勉強会を実施しており、職員は理解した上で日々のケアを提供している。また、個人記録は他者の目の届かない事務室に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者の希望を優先し、言動等を急かすことなく対応している。また、身体状況や精神状況に合わせて柔軟に支援している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握した上で食事を提供している。また、味付けや準備、後片付けを一緒に行ったり、職員も同じテーブルで食事を摂るなど、会話を楽しみながら、見守り介助を行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっており、利用者の希望や体調、習慣等に配慮しながら、安全に入浴できるよう支援している。また、夏場などは、希望があれば入浴日以外でもシャワー浴で対応している。利用者の羞恥心に配慮し、同意を得た上で異性介助を行っている。また、入浴を拒否する利用者には、時間帯をずらしたり、清拭で対応するなど、無理強いすることなく支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握しており、農作業や似顔絵、裁縫、掃除など、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間計画を立てているほか、毎週水曜日は買い物の日と決めるなど、積極的に外出の機会を作っている。誕生日には利用者の希望を聞き、家族も一緒に参加できるよう呼びかけるなどの取り組みを行っている。外出時は、法人の車両を使用したり、外出を見合わせるなど、体調等に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に「身体拘束廃止委員会」を設置しており、定期的に勉強会を実施して内容や弊害について理解を深めている。職員は、身体拘束は行わない方針で日々のケアを提供している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、念書を基に家族に説明して同意を得たり、理由や方法等を記録する体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は行わない方針となっており、玄関、居室などは施錠せず、自由に出入りができるようになっている。玄関前の事務室から利用者の外出傾向を察知することができ、察知した場合は付き添うなどの支援を行っている。また、無断外出時に備えて老人クラブに協力を呼びかけるなどの取り組みを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設、消防署、地元の消防団と合同で、定期的に昼夜を想定した避難訓練を実施している。災害時の備蓄品は併設施設で一括して保管しており、ホーム内には準備していない。	○	災害発生時にすぐに使用できるよう、備蓄品はホーム内に保管することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の主治医や管理栄養士と相談しながら献立を作成しており、摂取カロリー等に配慮された献立となっている。また、水分及び食事の摂取量は個別に記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内に「感染症予防対策委員会」を設置し、マニュアルを作成しており、マニュアルは必要に応じて見直しを行っている。また、インターネット等を活用して最新情報を入手したり、勉強会を開催するなど、職員への周知に努めている。感染症に関する情報は、利用者や家族にも提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーの畳敷きになっており、木目調のテーブルなどが設置されている。大きな窓からは自然光が差し込み、日射しが強い時はカーテンなどで調節している。また、職員の立てる物音やテレビ等の音量も適切である。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの品を持ち込んでもらうよう働きかけている。居室にはベッド、タンス、クローゼットが備え付けてあるが、テレビや位牌等が持ち込まれている。また、散策時の写真や制作活動で作った作品を利用者と一緒に飾るなど、その人に合わせた居室作りを行っている。		

※  は、重点項目。